

防衛大学校本科第二十四期および理工学研究科 第十七期学生卒業式における訓示

(昭和五十五年三月二十三日 防衛大学校)

本日でたく卒業の日を迎えられた防衛大学校本科第二十四期および理工学研究科第十七期の諸君に、まずもって心からお祝いを申し上げます。本日から陸、海、空の自衛官として新しい任務につく諸君は、いま、はげしい感動を覚えられているものと信じます。

諸君が自衛官としてその第一歩を踏み出される八〇年代は、日本にとっても、世界にとっても、多くの問題をかかえ、幾多の困難が予想される試練の時代であると思えます。われわれが二十一世紀においても、引き続き秩序と活力のある生存を確保できるか否かは、この八〇年代におけるわれわれの英知と対応の成否にかかっていると信じます。

世界の現状は、各国相互間の依存関係が一段と高まる中で、国際社会の多元化傾向は、いよいよ強まってきております。各国の間には、連帯と協力のシステムが強まりつつある一方、相互の不信と対立の溝も深まりつつあります。いくつかの地域では、政治的緊張が異常な高まりを見せ、軍事的紛争に発展しつつあります。アフガニスタンへのソ連の侵攻は、世界の平和に責任をもつ米ソ二大国間のデタントに微妙な

変化をもたらすばかりでなく、今日の世界的な緊張を一層激化させる契機にもなっております。まさしく国際社会は、その対応を誤れば收拾できない事態を招くおそれのある岐路に立っているといつても過言ではありません。

本来、世界は、われわれの望むようにつくられているものでもなく、秩序と活力に富んだ平和に向かって進むものであるという保証もありません。ただ明らかなのは、われわれの嘗々たる努力によってのみこの混沌たる世界に秩序と進歩をもたらすことができるということです。

わが国は、いかなる事態においても、世界の中で名譽ある生存を確保しなければなりません。わが国の名譽ある生存も、坐して与えられるものではなく、われわれの努力によってのみ確保されるものであります。

国民は、祖国に対する誇りと愛情をもち、わが国のもつ諸制度を通じて、安全と自由、正義と幸福を求めております。政府は、平和的な国際環境をつくりあげる外交と秩序正しい内政の充実に努力しながら、わが国にふさわしい防衛体制の確立を期しております。

防衛体制を確立するために、われわれはすでに決定された防衛計画の大綱に準拠して、質の高い防衛力の整備を着実に進めるとともに、日米安保条約の誠実な運営に努めねばなりません。もとより質の高い防衛力は、装備の近代化のみによつてもたらされるものではなく、士気旺盛な隊員によつてはじめてその精強さを確保できるものであります。厳正な規律と高い練度は自衛隊の生命であり、それこそが自衛隊が国民に支持され、国民に信頼される存在となるための要諦でもあります。諸君は、自衛隊の中核であります。

私は諸君がこの崇高な責務を自覚し、自らを堅く持するとともに、日々の訓練に精励されることを強く希望するものであります。国民の諸君に対する期待も、またそこにあると確信いたします。

私は諸君が現在の任務を真剣に遂行しつつ、明日の自衛隊づくりに向かって勇気ある前進を続けられんことを希望して、私の訓示いたします。